

## 異なるプロトコルの地震データのリアルタイム同時処理システム

### Processing realtime continuous seismic waveforms of multiple protocol types

# 坪井 誠司 [1]; 渡邊 智毅 [2]; 長尾 大道 [3]; 芝 正浩 [4]

# Seiji Tsuboi[1]; Tomoki Watanabe[2]; Hiromichi Nagao[3]; Masahiro Shiba[4]

[1] 地球内部変動研究センター; [2] マリン・ワーク・ジャパン; [3] JAMSTEC/IFREE; [4] NTT Data CCS

[1] IFREE; [2] MWJ; [3] JAMSTEC/IFREE; [4] NTT Data CCS

海洋研究開発機構地球内部変動研究センターは、アジア・太平洋域において観測ネットワークを維持し、グローバル観測ネットワークとの間で広帯域地震波形データ交換を行い、固体地球物理学のグローバルネットワークセンター構築を目指してきた。これまで、異なった地球物理観測網のデータを異なったフォーマット、およびデータ収集システムにより収集し、地震波形データベースを構築してきた。今回、標準的なリアルタイム地震波形収集システムにより、異なった観測網のデータも統一的に収集し、データベースの構築及び、解析システムを運用するためのテスト環境を構築することを考えた。受信するデータとしては、地球内部変動研究センターが全国地震観測データ流通ネットワークを通じて SINET3 経由のリアルタイムで win フォーマットにより受信している Hinet 高感度地震計データ等を扱うことを考えた。受信するシステムとしては、ドイツの汎世界的広帯域地震観測網である GEOFON で、SeedLink により送られてくる地震波形データを処理するために開発された SeisComP を用いた。SeisComP には Win フォーマットデータを受信するためのプラグインが実装されており、受信したデータを mini-SEED フォーマットにより保存することが可能である。SeisComP サーバーは海洋研究開発機構内部の Linux サーバーで稼働し、外部からのアクセスは許可されていない。Win フォーマットデータと他のフォーマットデータを同時に受信した場合のチャンネル数と処理時間などについては発表の際に述べる。謝辞：本研究では防災科学技術研究所が管理運営する Hinet を使わせていただきました。記して感謝いたします。